

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291200630		
法人名	株式会社オレンジ		
事業所名	グループホームなかよし		
所在地	〒271-0093 松戸市小山97-8		
自己評価作成日	令和3年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://hp.kaipoke.biz/hky/info.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	〒275-0001 千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和3年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自然での暮らしと同じように穏やかに過ごせる家」という理念の下、入居者様の意思を第一に支援させて頂いています。本社訪問看護ステーションとも連携を取り、入居者様の定期的な体調管理も行っていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当施設は、平成元年8月に開業されており、別の運営会社より引き継がれた事業所である。利用者の中には旧事業所から引き続き入居されている方もあり、定員は9名であるが、現在8名の方が利用されている。新しくなった運営会社は、柏で訪問看護、訪問医療、訪問看護等の事業を行っている企業で、当事業所では、医療と介護を両立させた、医療的介護を目指すグループホームであるといえる。江戸川にほど近い場所で、落ち着いた住宅街に立地しており近所には保育園や、小学校があり園児や児童との交流も盛んに行っている。ここでは「自宅での暮らしと同じよう穏やかに過ごせる家」という理念で、認知症高齢者の自立の促進と尊厳を尊重しながら、利用者、及びその家族が安心して暮らせる様、全力でお手伝いできることを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	無	チラシを作製して「自宅での暮らしと同じよう穏やかにすごせる家」と紹介している。施設長は、又、職員に意識してそれを伝えている。利用者には馴染みの洗濯物たみや掃除、危険でない範囲の調理にも参加してもらい、自立支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から地域との交流を見合わせているが、新型コロナウイルスの終息し安全が確保されたと判断できれば以前のように交流を図りたい。	参加していた地域イベントが中止になり外出の機会が減った。新たに地元の自治会に入会して会長さんと昨年2回面談、民生委員とも連携している。利用者の一人は自宅で訪問美容を利用していたため、3名でまとめて利用することで4割引の料金で美容サービスを継続して受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修や地域ケア会議により認知症の理解、認知症の方の思いを理解するよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面にて開催、ご意見をサービス向上に生かしている。	運営推進会議資料を利用者家族・市役所職員・民生委員・市介護職員・中央支援センターに郵送している。市介護福祉課と相談しながら、利用者の紹介や食事風景、誕生会等の様子に加え職員の内部研修も報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から松戸市の介護相談員の訪問が令和2年生3月より休止になっている。	利用者の生活保護受給のため市生活支援課に頻繁に出かけて相談している。介護支援課には保険の相談に加え、具体的な実地指導も受けている。事業所内の様子をカラー版のリーフレットにして関係部署に郵送している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修をグループホーム内で実施し、身体拘束を行わないことを周知徹底している。	身体拘束について、内部研修で全職員が認識を共有している。排便支援で他の利用者の見守りと重なったとき、「そこに座っていて」と言ってしまった。振り返りの中でそれはスピーチロックにあたると話し合った。繰り返し、精神的な圧迫にならない方法を職員間で話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修をグループホーム内で実施し、虐待防止の研修を行い、職員に周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度の研修を行い、学ぶ機会をもうけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時には、丁寧にご説明し、ご理解、ご納得頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様ご意見、ご要望に耳を傾け、ご希望に添えるよう努めている。	利用者家族に電話で「ご不便なことや何かご要望はありませんか」と聞くようにしているが、「本人が健康で過ごしてくれればいい」と、御要望や意見は少ない。ある家族からの要望で「寒いのが苦手だから一枚多く着せてやってほしい」とのことで、職員間で周知して対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員と話し合いや意見交換の機会を設けより良いケアが提供できるようにつとめている。	職員の4名は10年以上継続勤務している。その経験を活かし、出勤時や何か不都合があったときはその都度進んで提案してくれている。派遣社員を含め職員全員が気兼ねなく何でも話し合える雰囲気がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与、労働時間など本人の要望を考慮し、やりがいをもち働けるよう職場環境改善、条件の整備につとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム内での研修の機会を設け、介護職員の自己研鑽が図れる体制作りをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松戸市地域包括支援センター主催のケア会議や推進会議等に参加し交流の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご意見やご要望に耳を傾け、安心して生活できる関係づくりにつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等のご意見、ご要望が伝えやすい関係づくりにつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでのサービスだけでなく、必要な支援のサービスも含め対応させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々暮らしを共にする関係性の構築に向け、支援させて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、現在はご家族様より訪問を控えたい旨のお申し出があったが、終息した際には訪問したいとのご希望あり。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、外出を控えており、終息後再開の計画あり。	利用者の中で、年賀状や暑中見舞いなどをこまめに出している人がいるが、字が思い出せないことあり、職員と一緒に調べて書いている。交友関係が途切れがちの中、昔からの馴染みの美容院の出張サービスを、3名が継続して受けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は入居者様が1Fリビングで過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後もご相談いただける関係性が持てるように支援させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いや希望、意向の把握に努めている。	入所時の面談では、ご自分の思いを自分の意思で話せる方が少ないし、ご家族もまずはお任せという方が多く、初期段階では提出して頂くアセスメントやフェイスシートで、ケアプランを作成している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の生活歴や馴染みの生活環境等の把握に努め、支援させて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の一日の過ごし方、心身状態等の把握に努め、支援させて頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様、訪問診療医、ナース、訪問歯科医、歯科衛生士職員の意見や助言を取り入れ介護計画やモニタリングを作成している。	本部は訪問看護、訪問介護を運営しており利用者の健康管理については、日々のバイタルチェック、月2回の訪問診療、月1回の訪問看護で万全のバックアップ体制を持つ。ケアプランも短期目標から長期(6カ月)で評価を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃のケアや気づきなど情報共有し、実践や介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様の状況、ニーズに合った対応が出来るように支援させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域支援を把握し、心豊かに暮らせるよう支援させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療医による診察を受け、安定した体調で生活できるよう支援させて頂いている。	利用者は入所前からのかかりつけ医もある中、事業所運営本部の訪問診療、訪問看護により安心した生活が出来るように配慮されている。診察の結果については、何かあればご家族にも報告はされていることで、従来のかかりつけ医に通院される利用者は現在のところ無い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回同法人内の看護師による体調確認の際、入居者様の体調の情報共有をし、支援させて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居契約の際、重度化指針や看取り指針についてご説明し、ご理解頂きご意向確認書を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の際、重度化指針や看取り指針についてご説明し、ご理解頂きご意向確認書を頂いている。	入居時に家族の意向を確認し、契約を交わすが、その時期に直面した際には家族の意向を尊重した上で、都度主治医の的確な指示書により、事業所として支援できる最大限の支援方法で、ご家族にも納得頂ける対応が出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、日頃から初期対応や応急手当の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に利用者が避難できるよう訓練するとともに地域との協力体制を整えている。	年2回の実施で、1回は消防署立ち合いの元で訓練が行われている。立地環境から、ゼロメートル地帯に当たる為、堤防決壊時の避難も検討が必要であると思っている。地域住民と協力体制は万全の状態である。	行政からは最低3日間の非常用食料、水の備蓄を要請されていることから、対応への検討が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉使いや対応を心掛け支援させて頂いている。	プライバシーの保護については利用者一人ひとりの権利を守るための基本であることから、利用者に対しては年長者への敬意を払うこと、個人情報は利用者の皆さんの前では話をしない事など、職員には日頃より意識を持って頂くように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いや希望が表出出来るような対応し、自己決定が出来るよう支援させて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活のペースを尊重し、希望に沿って支援させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った清潔な服装で生活して頂けるよう支援させて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と職員が一緒に食事の準備、調理、片付けを行っている。	食材の調達はネットスーパーや、業務スーパーに買い出しに出掛け、調理については職員が対応している。配膳や後片付けは利用者もお手伝い頂いている。食事中はテレビは消し、音楽を流すなど、楽しくしっかりと摂って頂く為の工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量記録し、食事の好みに合わせてメニューや分量を考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、口腔内の清潔を保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導やお申し出によるトイレ誘導をさせて頂いている。	ほぼ全員がリハパン、パッドを利用されており、日中のトイレ誘導は、本人からの申し出によるものが多い。夜間に関しては、夜勤の職員が1時間おきに回って確認を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容や量、体操や歩行の機会を設け便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴して頂いている。	週2回の入浴を時間を決めて利用して頂いており、介助についてもお一人3人掛かりで対応している。利用者は女性ばかりであり、同性の職員の介助の為スムーズに対応が出来ている。入浴拒否者も無く現在のところでは問題は無い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠や休息できるよう日中活動的に過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の目的、副作用、用法、用量を理解し、服薬介助させて頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや楽しみを持って生活できるよう個々の生活歴や気分転換に配慮し支援させて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、現在は外出を控えているが終息後再開できるよう計画している。	コロナ禍の為、思いうような外出支援が出来ていなく、天気の良い日に、近所の散歩程度の対応しかできない状況である。しかしながら終息後には、利用者の皆さんにも満足して頂ける様に、しっかりと対応を計画中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在入居者様が金銭管理や所持されておらず、ご家族様にもご説明し了承を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りをされている入居者様もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間で快適に過ごして頂けるよう環境整備を心掛けている。	リビング、台所、廊下、玄関共にそれほど広い空間が無く、利用者の皆さんには多少窮屈な感じを与えているかもしれないが、それでも季節感を出す為の飾りつけや、写真の掲示等、職員が工夫しながら行っている。利用者の皆さんも元気な方は掃除等も含めて一緒に手伝って頂いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席やソファなど居心地の良い場所への移動や気の合う入所者様と楽しく過ごせる空間づくりも心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、テレビなど馴染みのものを持参され、快適に過ごされている。	居室内は、あくまでプライベートのエリアではあるが、お掃除に関しては毎日職員が早番、遅番で午前、午後に分かれて行っている。利用者の皆さんは各々ご自分の馴染みの物を持ち込まれている様であり、落ち着いて過ごして頂くことが優先で特に制限は行っていない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内の移動や安全で自立して生活が出来るよう支援させて頂いている。		